

パテかいに関して

2016年6月17日
株式会社 KM ユナイテッド

「パテかい」とは？

「パテしごき」「地付け」ともいい、塗装の素地・下地の不陸（「ふりく」水平・平坦でないこと）や目違い・きず、パテをへらで塗りつけて平らにすること。

目的（なぜ、パテかいをするのか）

1. 塗装する下地を平滑にする。（キズ・穴・凹凸・段差・ひび等に対して）
2. 塗装する下地ボードのジョイント部分、ビス（タッカー）の穴を埋めて平滑にする。

パテの種類と施工部位

パテは建築塗装の下地以外にも板金塗装（自動車の塗装）にも使われており、施工箇所により用途が異なる。

<主な建築用パテ>

施工箇所	パテの種類	特徴	商品名	写真
ボード	エマルジョンパテ	すでに調合されており作業性が良い。	ジョイントパテ ジャストパテ等	
	粉パテ	粉に水を加えて使用するパテ。固練り、薄練など粘度を調整しやすい。乾燥時間が30分硬化など、速乾タイプがある。	S Lパッチ タイガーパテ等	
鉄部	ポリエステルパテ	硬化剤と混ぜて使用する。硬化すると硬く、鉄部との密着が良い。硬化時間が早く作業時間に限りがある。	ポリパテ	
	水性板金パテ	硬化すると硬く、鉄部への密着が良い。厚付けができ、乾燥が速い。	ゼロパテ	
コンクリート	セメント系フィラー	主剤と混和材を混ぜて使用する。	カチオンフィラー	

ボードパテの種類

<ボードパテの種類と特徴>

種類	用途	特徴	使用方法
ビスパテ	ケイカル板・スレート板・プラスターボード等のビスやタッカーの穴埋め用	厚盛りができ、肉痩せが少ない。	定板に必要な量とり、パテベラでこねて使用する。
下地パテ	プラスターボードのジョイント処理 下塗り用	厚盛りができ、研磨性が良い。	ダンボール製はパール缶へ移しマーゼルで混ぜてから使用する。
上地パテ	プラスターボードのジョイント処理 上塗り用	きめが細かく仕上がりが良い。	場合によってはチューブ式顔料を少量入れて色をつける。

<塗装をするまでの一連の流れ>



① コンクリートで外側を作ったところ。内部の壁は何も無い

② 軽量鉄骨で下地を作る。

③ ②にボードを張っていく。

④ 内部の壁ができる。



⑤ ボードの繋ぎ部分に隙間があり、ボードを留めるビス穴もある。

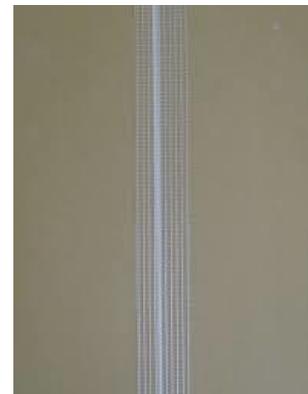
⑥ ⑤の個所にパテを盛って平滑にしていく。

⑦ パテ乾燥後、ペーパー掛けを行い、より平滑にする。

⑧ パテ完了後塗装を行う。

ボードジョイントパテの施工

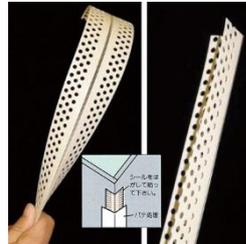
1. ジョイント部分に、ボードのジョイントに沿って割れ防止のためのファイバーテープを貼る。
 - ファイバーテープの端部を手で押さえ、3号又は2号の金ベラで押えて張っていく。
 - 端部で金ベラを立ててファイバーテープをカットする。
 - カットしたロール側の端部は、折っておけば次回使用時に端部が分かりやすい。
 - なお、縦目地と横目地の交差部は、ファイバーテープを重ねて張らない。
 - ファイバーテープの「ほつれ」がでた場合は、カッターを使用して「ほつれ」を取り除く。



パテベラは使用パテ等によりいろいろなサイズがある。
(1号～6号) 数字が大きくなるほどにサイズが大きくなる

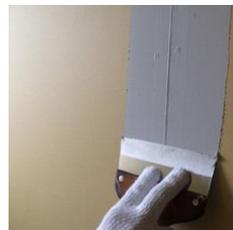
2. コーナー部分のラインを通すために、コーナーテープを貼る。

- 施行部の長さを測り、あらかじめ使用する長さにはサミを使用してコーナーテープをカットする。
- コーナーテープは端部まで貼りつける（逃げて貼らない）。
- 裏紙を剥がしコーナーに合わせて張っていく。
- コーナーテープをしっかり押さえつけないとパテ施工後浮きが発生するので注意すること。
- コーナーテープは基本途中で継ぎ足さない。
- ボードの張り方で段差が大きい場合やコーナーに欠けがある場合は、あらかじめ下地パテで修正してからコーナーテープを張る。



3. 下地パテを施工する。

- ペール缶、又は缶にてマーゼル（電動攪拌機）で練り混ぜる。基本水は加えない。
- 上地パテの施工箇所と区分するために、チューブ式調色顔料を少量入れて色を付けることもある。
- プラスチック製ヘラを使用して適量を定板にすくう。
- ペール缶等のふちに付いたパテは固まると傷の原因になるので、ヘラですくうか濡れたウエスなどでふき取っておく。
- ファイバーテープに隠れたジョイント目地に押し込み充填する。
- ファイバーテープが隠れるようパテを盛る（厚すぎず、薄すぎず）。



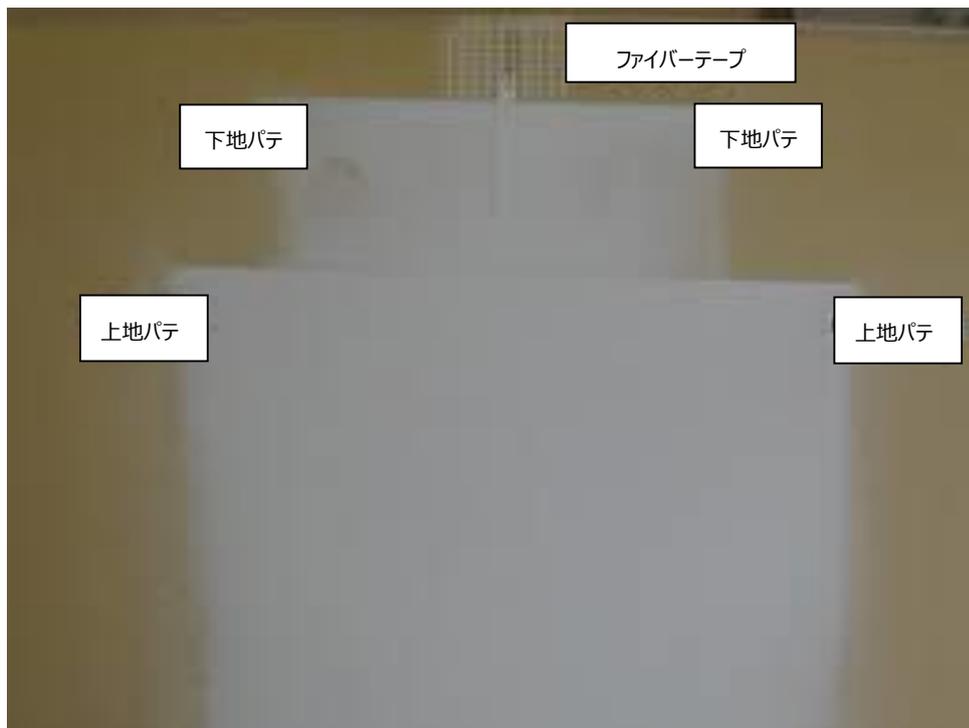
4. 上地パテを施工する

- パテの使用方法は下地パテと同じ。
- 下地パテの「ミミ」がある場合、またパテとボードの取り合いに段差がある場合はペーパーを掛けて平滑にする。
- 上地パテは厚付けが出来ないので、下地パテで段差などは埋めておく（不陸調整）
- 乾燥後に段差、傷をペーパー掛けで平滑にする。



ボードビスパテの施工

1. ビス、タッカーを埋め込んだ際にできたボードの「めくれ」を、スピーダーにてペーパーを掛けるか、金へらを使用して除去する（ただし、パテのペーパー賭けで除去できる部分もあるので完全に撤去する必要はない）。
 - スレート及びケイカルボードは、ビスを打ち込む時にビスの回りが膨れるので金へらで削る。
 - ビス、タッカーがボードよりはみ出ている場合はドライバー、ポンチを使用して埋め込む（大量に出ている場合は前業者に埋めてもらうために職長に報告する）。
2. 下地パテ又はビスパテを 1 号～2 号の金へらを使用してパテを充填する。
 - 余分な部分及び盛りすぎたパテを金へらでしごく。
 - この時、充填としごきは別の角度で行い、しっかりと充填する。
 - 上地パテの施工箇所と区分するために、チューブ式調色顔料を少量入れて色を付けることもある
 - なるべく小さくパテをかう（ビス埋め込みによってできたビス周りの盛り上がりも埋める）。
3. 下地パテが乾燥後スピーダーでかるくペーパーを掛ける。
 - 下地パテと同様に充填していく。
 - 下地パテより大きくパテをかう。
 - 乾燥後ペーパー掛けをおこない平滑にする。



安全について

- パテへらは、使用していると鋭利な刃になるので必要な時以外には触れないこと。
- 適切な保護具を使用すること。
 - ペーパー掛け時には粉塵を吸わないようD 2レベルのマスクを使用する。
 - 天井にてペーパー掛けをする場合は粉塵が目に入らぬよう保護メガネを着用する。
 - ペーパー掛け時にはペーパーを掛ける側の手は軍手をはき、切り傷などに注意する。